



〔2階第1室〕^{そめつけつてつしやまど え かつらうもんつぼ} 染付鉄砂窓絵花鳥文壺
金沙里窯 朝鮮時代 18世紀前半 高 40.3 cm



〔1階玄関〕^{そめつけさんすいもんはち} 染付山水文鉢
伊万里 江戸時代 17世紀 径 47.7 cm



〔2階第4室〕^{つきしまものがたりえまき} 築島物語絵巻（部分）
紙本着色 室町時代 16世紀 縦 36.0 cm



〔2階回廊〕^{みづいろしどおやま いろがらんようびん} 水色地遠山に落雁文様紅型衣裳（部分）琉球王朝時代 19世紀



〔1階第2室〕^{いむいりわき} 祝上着
台湾 バイワン族 苧麻・毛、藤織（かがりおり） 19世紀 幅 147.5 cm



〔大展示室〕^{あおくすりおしもんじゅうじけいかくざら} 青釉押文十字掛角皿
濱田庄司 1958年 径 29.3 cm



〔大展示室〕^{まほん} 絵本どんきほうて
芹沢銈介 合羽刷 1936年 縦 37.0 cm



〔2階第2室〕^{もでんかあやうもんはこ} 螺鈿花鳥文箱
朝鮮時代 19世紀 幅 33.4 cm



日本民藝館 本館内観
※実際の展示とは異なる場合があります

開館 75 周年
記念

日本民藝館名品展

2011年 4月5日(火) - 6月26日(日)

Masterpieces of Nihon Mingeikan - Commemorating the 75th Anniversary



日本民藝館 本館外観

月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館）／10:00-17:00／一般1,000円 大高生500円 中小生200円／
東京都目黒区駒場4-3-33／TEL 03-3467-4527／京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分／西館公
開日（旧柳宗悦邸）：会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日／<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

開館75周年記念 日本民藝館名品展

朝鮮陶磁器や英国スリップウェアとの出会いを契機にして、日常の器物の中に無限の美しさを見出した柳宗悦（1889-1961）。

1925（大正14）年には、陶芸家の濱田庄司や河井寛次郎らと民衆的工藝の意味から「民藝」という新語を作り、翌年には『日本民藝美術館設立趣意書』を発表。新しい「美の標準」を提示するための美術館の設立運動を始動させていった。

そして、柳は民衆の日常品への深い情愛と、人並み勝れた直観力によって次々と新しい美を発見し、来るべき美術館の蒐集品とするとともに、それらを基に民藝美の理論的探求に邁進していったのである。

なお、この「直観」の力とは、知識や理論といった先入観に頼らない純粹な眼と心の働きで、柳の生涯にわたる思索と行動の規範ともなった。

念願が叶い、民藝という一つの美の目標に共鳴する人々の力によって、東京駒場の地に日本民藝館が開設されたのは、1936（昭和11）年のことであった。民藝館の設立は、柳自身はもちろん濱田や河井等周囲の工芸家たちも熱望していただけに、その喜びは格別なものであったに違いない。柳は初代館長に就任すると、早速ここを拠点にして数々の展覧会や、国の内外への調査蒐集の旅、旺盛な文筆活動などを展開していった。

日本民藝館には、陶磁器・染織品・木漆工品・絵画・金工品・石工品・竹工品など古今東西の諸工芸品約17,000点が収蔵されている。なかでも、丹波・唐津・伊万里・瀬戸の日本古陶磁、日本各地の民

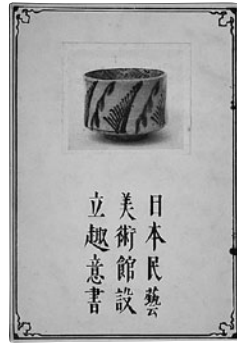
窯陶器・丹波布や東北地方の被衣、大津絵や物語絵巻、日本漆工や木喰仏、沖縄の陶器や染織品、アイヌや台湾先住民族の衣裳、朝鮮時代の陶磁器・木工・絵画、英国の古陶スリップウェアなどは、国の内外で高い評価を受けている。

また、柳の主唱した民藝美論は、柳の盟友であるバーナード・リーチ（陶磁・絵画 1887-1979）、富本憲吉（陶磁 1886-1963）、濱田庄司（陶 1894-1978）、河井寛次郎（陶 1890-1966）をはじめ、芹沢銈介（染色 1895-1984）、棟方志功（版画 1903-1975）、黒田辰秋（木工 1904-1982）ら多くの工芸家に感化を与え、日本の近代工芸界に大きな流れを作っていた。

民藝館の使命は「美の標準」の提示とともに、将来の創作への準備にある。彼らは民藝品から多くの美の滋養を汲み取りながら、独自の仕事を展開していった。そして、その作品は1936年の開館記念展において、民藝館の使命である新作工芸運動の一環として、大きく紹介されたのである。

さて、開館75周年を迎えるにあたり、それを記念して当館では「日本民藝館名品展」を開催する。展示内容は上記の特筆すべき収蔵品の中から厳選した逸品を中心に、柳の自筆原稿や私家本、写真などの資料約500点。柳が生涯追い求めた美の世界とは何であったのかを紹介する。

柳は民藝館設立の想いを、「私達は美しい品物を、共に悦び合いたいためにこの民藝館を建てたのです」と述べている。来館された方々と、この想いを分かち合うことが出来れば幸いである。



日本民藝美術館設立趣意書
1926年



建築中の日本民藝館本館 1936年



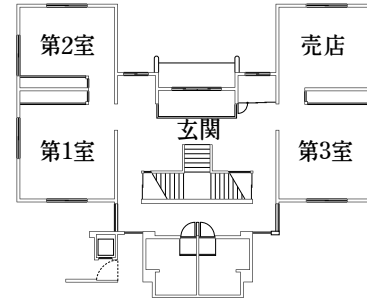
富山・城端別院にて
左より濱田、柳、河井
1949年



〔1階第1室〕鉄袖白流三耳壺
江戸時代 18〜19世紀 高52・5cm 小代



〔大展示室〕華嚴譜 風神の柵
棟方志功 1936年 横39.0cm



展示室 1 階

〔玄関〕梁武事伝碑拓本と中国・日本の磁器

当館には古染付・古赤絵などの中国磁器と伊万里の染付が併せて約1200点所蔵されています。その中から「伊万里染付山水文鉢」などを含む約20数点を、名品のみに絞って展示します。さらに名品展に相応しい木喰仏と梁武事伝碑（6世紀）の拓本も公開します。この拓本（宋拓）は、梁の武帝が座右の銘として刻んだもので、後に碑が落水したため、日本民藝館所蔵品以外には存在が確認されていません。

〔第1室〕日本の民窯陶器

藩の保護を受けず、民需に応じて日常使用のために焼かれた民窯の陶磁器。それらは複雑な形や緻密な模様を必要とせず、数多く作る仕事から熟達した美しい品々を生み出しました。柳宗悦らを魅了した、東北から沖縄までの各地民窯陶器の名品を紹介します。

〔第2室〕外邦及びアイヌの工芸

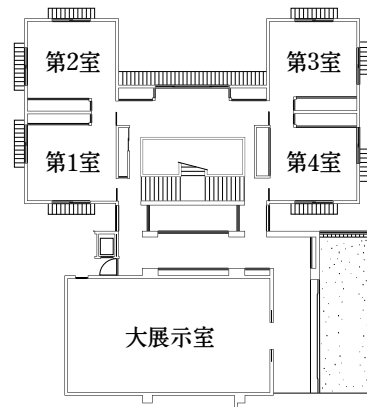
当館収蔵品の中から、朝鮮と中国を除く外邦の工芸を中心に展示します。主な展示品は、スリップウェアなどの西洋陶器、原始的な機で織られた精巧な台湾の織物や、アメリカの先住民族の工芸品などです。また、日本列島北方のアイヌ民族が生み出した衣裳もあわせて紹介します。

〔第3室〕日本の染織

津軽のこぎん、庄内地方の被衣や刺し子、越後上布などの緋織物、丹波布や屑糸織など、柳宗悦によってその美が広く知られるようになった本土の染織品と、質量ともに優れたコレクションとして定評がある、芭蕉布や芋麻など多様な琉球王朝時代の織物を展示します。



〔第3室〕紺地剣酢漿草大紋山道文様被衣
江戸時代 18-19世紀 縦131.0cm



展示室 2 階

〔大展示室〕柳宗悦と新作工芸

大展示室では、民藝館を活動の拠点にした、バーナード・リーチ、富本憲吉、濱田庄司、河井寛次郎、芹沢銈介、棟方志功等の代表作約100点を展示します。彼らは民藝品から美の滋養を汲み取りながら独自の仕事を展開。1936年の開館展示においても、彼らの作品は新作工芸として大きく紹介されました。

〔第1室〕朝鮮工芸の精華 I —陶磁器と絵画—

国内屈指の質と量を誇る当館所蔵の朝鮮陶磁器。そのコレクションの中核である17世紀末から19世紀後半の白磁や染付を中心に、朝鮮時代初期の陶器、そして高麗時代の陶磁を加えて、柳が生涯にわたって愛し続けた珠玉の朝鮮陶磁を紹介します。

〔第2室〕朝鮮工芸の精華 II —木漆・金石・絵画—

当館が所蔵する朝鮮時代の工芸品は、陶磁器だけでなく木工・漆工・石工・絵画など、様々な分野にわたっています。本展示では、朝鮮の膳や螺鈿・華角などの木工・漆工と、文房具を始めとした金石工芸などの優品を展示します。

〔第3室〕日本の諸工芸

柳宗悦によって蒐められた日本の諸工芸より名品を選び展覧いたします。秀衡椀に代表される漆絵を中心とした漆工の品々、素材と機能が生んだ造形が特徴的な木工・木彫類、燭台や湯釜などの金工類、その他竹工や革工、硝子など、人々の生活に親しく交わった諸工芸の数々をご覧ください。

〔第4室〕日本絵画名品撰

当館が誇る大津絵コレクションを始めとする泥絵・絵馬などの日本の民画に加え、仏教絵画や絵巻など、日本の絵画の優品を展示いたします。併せて、柳宗悦考案により掛軸に仕立てられた、表装の妙技をご覧ください。



〔第3室〕漆絵柏文瓶子
室町時代 16世紀 幅30.0cm